

第8章 津波浸水域の予測

8.1 概要

千葉県は太平洋及び東京湾に面しており、古くより津波の被害を受けてきた。東北地方太平洋沖地震においても、銚子で最大波高 2.5m を記録し、旭市で最大浸水深 3.7m (最大津波痕跡 T.P.+7.6m) と推定されるなど、広い範囲で被害を受けた。県内での死者の 22 名のうち 14 名が津波によるものとされ、津波被害が繰り返したことになる。

このような状況を踏まえ、千葉県では、過去津波の再来による災害の軽減のため、元禄地震、延宝地震の津波浸水予測図を作成するとともに、津波避難の基礎資料とするため、気象庁の津波警報に準じた津波高 3m、5m、10m の津波や東京湾口 10m の津波の浸水予測図を作成している。また国では、別途南海トラフ地震や大正型関東地震による津波浸水図の計算を実施している。

本調査では、緊急性を考慮して東北地方太平洋沖地震による断層の割れ残りを想定したモデル(房総半島東方沖日本海溝沿い地震モデル)を検討の対象とした。このモデルは、第2章で述べたように、延宝房総モデルの北部を除くモデルを波源とした。

房総半島東方沖日本海溝沿い地震を対象として、10m メッシュによる津波浸水予測計算を行い、計算結果を取りまとめた。計算に使用したメッシュデータは、首都直下地震モデル検討会(内閣府 2013)により公開されているデータを基本として使用した。なお、内閣府(2013)で公開されている千葉県内の堤防データは、千葉県(2012b)で使用された堤防データ(12.5m)を用いている。